産業観光
きりゅう紀行 ㊿

産官学民の力を結集「環境先進都市」桐生のシンボル

低速電動コミュニティバスeCOM-8『MAYU』

東久方町２丁目の四辻の齋嘉（旧齋嘉織物）にはカラフルで愛らしい４色の車両が、ノコギリ屋根を象った車庫に停められている。

車両は、群馬大学・北関東産官学研究会による JST-RESTEX 研究開発プログラム「地域力による脱温暖化と未来の街 - 桐生の構築プロジェクト」にて開発・製造された「低速電動コミュニティバス eCOM-8」通称「MAYU」である。同プロジェクトは「環境推進都市」を目指す桐生市の豊かな森林や水資源を生かしてＣＯ2 排出を削減し、自然と共生しながら地域力向上や活性化を目指し平成25年まで実施された。産官学民が協力し多くの社会実験が行われ、「低速電動コミュニティバス eCOM-8」はその成果の１つとして開発された。平成24年７月にナンバーを取得、翌25年にはさらに３台が追加製造され、株式会社桐生再生（東久方町、清水宏康社長）により、市内の観光案内や定期循環、イベント開催時などの特別運行で活用されている。

「MAYU」は「低速」の名前の通り最高速度19ｋｍ。10人の乗りベンチシートは自然と同乗者の会話を盛り上げ、和やかな車内環境造りに一役買っている。前面・後面はガラス張り、側面は吹き抜けで見渡し良好のため、季節の風を感じながら本町１・２丁目の重伝建地区をゆっくり見学するのに最適。さらに、バッテリーによる駆動のため排気ガスゼロはもちろんのこと、天井に設置されたソーラーパネルで電力を作りだすこともできる。「MAYU」の魅力は機能だけに留まらず、８つのタイヤとカラフルな箱型の人目を引くデザインは子供たちにも大人気である。

環境への社会的ニーズが高まる中 e-COM8 は市外からも注目を集め、谷川岳（みなかみ市）や宇奈月温泉（富山県黒部市）などでも運行中。さらに、中心となって設計を手掛けた㈱シンクトゥギャザー（相生町、宗村正弘社長）は、マレーシアの企業から受注をうけるなど、「MAYU」の兄弟が「環境先進都市」桐生のシンボルとして各地で活躍している。

（写真は群馬大学理工学部提供）

●株式会社桐生再生　桐生市東久方町2丁目1－45　☎0277－46－6916
●株式会社シンクトゥギャザー　桐生市相生町5丁目484　☎0277－55－6830